

森林再生放牧場

松江ルポ

松江市鹿島町御津の日本海を望む丘陵地で、畜産農家の山下孝治さん(47)がドラムをたたくと、牛が一斉に集まり始めた。エサの時間を知らせている。山、海、畜産のすべてがよい方向に向かう。それがやりがいかな。日焼け顔を緩めながら話す。



「自然に触れる機会が少ない今」放牧場で学ぶことは多い

放牧場は「森林再生型」と銘打ち、牛ふん処理の低減化など畜産農家の負担軽減のほか、下草を牛に食べさせ植林する

ことで、治山や栄養分を含む水が海に注いで漁業資源の回復にもつながる「一石三鳥」を目指した。

ヤマザクラやヤマモモを植林し、松くい虫で荒れていた森林が回復するなど効果も出始めると、徐々に看板が設置された。

「この子たちに今の自然を残してやるのが大人の責任。ここでの経験がこの子たちの財産にもなる」と、牛と触れ合う子どもたちを見ながら山下さんは夢に一歩近づいた手ごたえを話す。

将来的には、放牧場を新規就農者の受け皿にして、過疎化が進む同町の定住対策にもつなげていきたいとも考えている。森づくりを漁業、畜産振興、定住対策へ。山下さんたちの挑戦は続く。



子どもたちに放牧場の取り組みを説明する山下孝治さん(左)と松江市鹿島町



秋山 豊寛 (農業著述家・ジャーナリスト)

阿武隈の空の下から

このカエルたちも、この地球の生命の重要な構成員です。地上四〇〇キロメートルから見た太陽系第三惑星は燃えるように輝く大気に包まれ、実に生命のかたまりのように見えました。生命? そう、地球はこの大宇宙で、今のところ、生命体の存在が確認されている

唯一の星。ボクは今、阿武隈の山地で、山の水を飲み、一反ほどの田んぼでコメを育て、その半分ほどの面積の畑で野菜やマメを育て、町内の雑木林から切り出したクスギを原木にして椎茸を栽培しています。長生きを目指さず暮らしています。人の寿命は長くて一〇〇年くらいです。でも、生命のつながりというここでは、

夕闇が麓からゆっくり昇って来る時刻になりますと、カエルたちの鳴き声は一段と大きくなります。阿武隈山地大滝根山の中腹にあるボクの家周辺には、アカガエル、ヤマアカガエル、アマガエル、ツチガエル、そしてガマガエルたちが沢山います。このカエルたちが一斉に鳴き始めると、ボクの家を訪れている都会からの客人などは「これカエルですよ」と一瞬不安な表情を浮かべたりします。

ボクという個体の外に広がる「自然」も同じように、生態系という絶妙なバランスの上に成り立っています。その「自然」の中でも、生命の豊かさを維持する上で森の役割は特に重要です。森が二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する作用は良く知られています。似たような働きをする海も生命に恵まれています。この

森林豆知識 松くい虫被害

海岸沿部や乾燥した山間部などの森林を形成する松林は、飛砂、防風、景観や銘柄材の生産など多くの役割を持つ。松が大量に枯れる松くい虫被害は、外国からの輸入木材に付着し運ばれてきたマツノザイセンチュウが、マツノガラカミキリの体内に入って運ばれ、松の木に寄生することで集団枯死させる。日本国内では1970年代から急速に広がり被害をもたらした。全国的な被害のピークは79年で、同年鳥取県内では約12万㎡の私有林が被害を受けた。鳥取県内では84年に約11万㎡の被害量を記録している。現在の被害量はピーク時の1/4程度にまで減少しているが、夏の高湿小雨などの天候不順による被害の増加が懸念されている。

この特集は14回シリーズで掲載します 企画・山陰中央新報社

秋山豊寛(あきやま とよひろ) 1942年東京生まれ。IU卒業後、TBSに入社、ロンドン駐在記者、フジテレビ支局長などを歴任。90年に日本初の宇宙飛行士として、ソユーズ宇宙ステーションに搭乗。帰国後、TBS報道局長を経て、95年に退職。現在は福島県で農業に従事し、無農薬栽培を実践。講演執筆活動も行い、環境問題にも積極的に関与している。

森林保全活動レポート その⑥



二度と草原は荒らさない。その決意をもって行動します。

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守る!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

鳥根県大田市の国立公園三瓶山。ここは江戸時代から和牛が放牧され、さらに農家の人々による草刈りや野焼きが長年にわたって行われていました。言わば、人間の営みが自然に働きかけ、草原景観を作りあげていたのです。しかし、農業を取り巻く環境の変化で、放牧や野焼き、採草が途絶え、それに伴い草原が荒廃してしまいました。

「二次的自然(里山などに代表される、人の手が長年入った自然)だから、これからも人間が手を加えないと、ますます自然が損なわれてしまう。」そう判断した結果、野焼きやイバラ刈りなどのボランティア活動を続けてきました。左の写真は、こういった努力の結果、やっとここまで草原が復元されたことの証拠。さらに、子どもへの啓発として年間を通して大田市立温泉津小学校の児童と一緒に「げんこつ山プロジェクト」という自然体験活動を展開しています。



「牛のうんこに混じっているシバの種は、とても育ちやすいんだよ。」初めに知る牛と自然のつながりに、子供たちは興味津々。

今後の活動予定
8/18(金)~8/25(金)
<7泊8日>里山インターンシップさんぽ
開催場所:鳥根県大田市
対象者:18歳から25歳までの男女学生(学部・専攻不問)
定員:12名。応募多数の場合書類審査
参加費:30,000円(期間中の宿泊・食事・受講料を含む)
申込方法:履歴書(写真添付)と応募理由(A4版1枚)を郵送
締切:7/14(金)消印有効
申込先:NPO法人緑と水の連絡会議まで
「緑と水の連絡会議」ホームページで参加者の体験レポートが読めます。
<http://www.iwami.or.jp/ohgreen/>

今回の森林保全活動レポートその⑥に登場する
NPO法人 緑と水の連絡会議
平成4(1992)年に、草原や里山などの重要性を訴えることを目的としたNGO(非政府組織)として発足しました。その後、鳥根県の三瓶山で行われた和牛の放牧による草原再生を目的の活動に賛同し、農業と自然保護との関係について研究し始め、平成8(1996)年からこの啓発活動を行ってきました。平成9(1997)年には、鳥根県・大田市とともに「全国草原シンポジウム」を開催。平成15(2003)年には、NPO法人に発展し、活動の幅も全国的になっています。

森林を守る! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん (6月18日現在) ※50団体
鳥取県
NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
NPO法人 サカズネット(倉吉市)
広葉樹文化協会(鳥取市)
財団法人 南部町地域振興会(南部町)
大山横手道上ブナを育成する会(米子市)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
トリネット(米子市)
日野川の源流と流域を守る会(日野町)
丸山生産森林組合(伯耆町)
鳥根県
出雲市林業振興協議会(出雲市)
NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)

NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
源流の森山づくり(邑南町)
財団法人 鳥根県西部山村振興財団(浜田市)
里山を育てる会(松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)
薪ストーブ同好会(松江市)
松江ネイチャーゲームの会(松江市)
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
森の仲間(出雲市)
遊木民倶楽部(益田市)
特別協力
山陰中央新報社
新日本海新聞社

この広告に関するお問い合わせは事務局まで
山陰合同銀行 地域振興部内
鳥根県松江市魚町10 千690-0062
TEL.0852-55-1820
みんなで 森を守ろう!